

## 東北地方太平洋沖地震に係る本院の救護活動について

大阪大学医学部附属病院長 福澤正洋

3月11日に発生いたしました東北地方太平洋沖地震により被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

大阪大学医学部附属病院といたしましては、被災された皆様が平穏な生活を1日も早く取り戻されるために少しでもお役に立てればという気持ちを込めて、下記の救護活動を行っております。

1. 本院から医師2名、看護師2名、事務1名で構成するDMATチーム及び医師2名、看護師1名のドクターヘリチームを派遣。DMATチームは、平成23年3月12日（土）6時50分、伊丹空港から自衛隊機で花巻空港へ向い8時50分に到着、空港に設置されたSCUにおいて医療活動を開始。  
同じくドクターヘリチームは、同日7時30分に福島県立医科大学に向けて出発、13時14分に到着し患者搬送等の医療活動を開始。
2. 平成23年3月14日（月）11時00分から病院が召集した「東北地方太平洋沖地震に係る打合せ」において、支援等について検討。
3. 平成23年3月14日（月）13時00分、文部科学省から放射線測定者の福島県への派遣要請を受け、医師1名、看護師2名、放射線技師1名 計4名の派遣を決定し、3月15日（火）12時00分、伊丹空港から羽田空港に向けて出発し、現在、千葉県の放射線医学総合研究所において待機中。
4. 平成23年3月15日（火）14時30分DMATチームが任務を終え、無事帰院した。また、16時30分ドクターヘリチームも任務を終え、無事帰院した。
5. 平成23年3月16日（水）19時00分放射線測定のため、派遣した職員が帰阪。
6. 平成23年3月17日（木）患者受入れ、医師派遣等の医療支援に関する検討を行うため、東北地方太平洋沖地震医療対策本部を設置。  
また、医学部に医学科、保健学科、附属病院が相互に連携し、全力を挙げて支援を行うため、東北地方太平洋沖地震対応委員会を設置。

7. 平成23年3月18日（金）東北大学からの支援要請を受け、臨時臨床科長会議を開催し、内科医師2名、看護師2名、事務職員2名からなる医療支援チームを編成し、派遣を決定。  
（呼吸器内科・准教授、血液腫瘍内科・医員、医病・看護師、歯病・看護師、医学部・事務職員、医病・事務職員）
8. 平成23年3月21日（月）東北大学から要請のあった医療支援チームの派遣については、現地の支援ニーズの状況変化に伴い、派遣の取りやめを決定。
9. 平成23年4月20日（水）～4月24日（日）の間、本院薬剤師1名が日本医師会から大阪府医師会を通じて活動しているJ-MATに参加し、岩手県の避難所において救援活動を実施。

（平成23年4月20日 9時00分現在）